

2016年度第4回

千葉大学アカデミック・リンク・セミナー／ALPSセミナー

Shape your world



# 立命館アジア太平洋大学における 多文化協働学修の試み： 混ぜる教育の実践現場から

立命館アジア太平洋大学  
教育開発・学修支援センター(EDLSC)  
副センター長・准教授  
平井達也  
hirait@apu.ac.jp

アカデミックオフィス 杉山正純  
sugi-m@apu.ac.jp



# 本日のアウトライン

---

- **APUの概要・特徴**
- **日本語教育カリキュラム・サポート制度**
- **多文化協働学習**
- **ピアリーダー制度**
- **グローバルキャンパスでの学生支援課題と対応について**

# 多文化共生型キャンパス

Shape your world



世界

# 90

カ国・地域からの

国際学生2,942名と国内学生3,006名

合計5,948名が学ぶ国際大学

(2016年11月1日付/学部生、大学院生、交換留学生などの非正規生含む)

国際学生比率 50.3%

開学以来、学生が在籍したことのある国・地域

# 138

教員総数

172名

外国籍教員総数

87名

外国籍教員比率

50.6%



# 学生数内訳

Shape your world



	学部学生数	大学院学生数	科目等履修生等	合計
国際学生	2,697	171	76	2,944
国内学生	2,856	7	41	2,904
APU学生総計	5,553	178	117	5,858

※2016年11月1日付

# 国際学生上位10カ国

	国・地域	学部学生数	大学院学生	科目等履修生等	合計
1	大韓民国	499	7	1	507
2	ベトナム社会主義共和国	476	26		502
3	中華人民共和国	437	9	10	456
4	インドネシア共和国	346	10	5	361
5	タイ王国	281	14	2	297
6	バングラデシュ人民共和国	87	5		92
7	台湾	67	3	4	74
8	スリランカ民主社会主義共和国	69	3		72
9	インド	56	5		61
10	ネパール連邦	42	4		46

※2016年11月1日付

# 90カ国・地域内訳

---

アイスランド共和国	カメルーン共和国	ネパール連邦民主共和国	モルディブ共和国
アゼルバイジャン共和国	カンボジア王国	ノルウェー王国	モルドバ共和国
アフガニスタン・イスラム共和国	キルギス共和国	ハイチ共和国	モロッコ王国
アメリカ合衆国	ケニア共和国	パキスタン・イスラム共和国	モンゴル国
アラブ首長国連邦	コロンビア共和国	バヌアツ共和国	ラオス人民民主共和国
アルゼンチン共和国	サウジアラビア王国	バングラデシュ人民共和国	リトアニア共和国
アンティグア・バーブーダ	サモア独立国	フィジー諸島共和国	リベリア共和国
イエメン共和国	ジョージア	フィリピン共和国	ルーマニア
イタリア共和国	シンガポール共和国	フィンランド共和国	レバノン共和国
イラン・イスラム共和国	スイス連邦	ブータン王国	ロシア連邦
インド	スウェーデン王国	フランス共和国	英国
インドネシア共和国	スペイン	ブルガリア共和国	台湾
ウガンダ共和国	スリランカ民主社会主義共和国	ブルキナファソ	大韓民国
ウズベキスタン共和国	セネガル共和国	ブルネイ・ダルサラーム国	中華人民共和国
エクアドル共和国	ソマリア共和国	ベトナム社会主義共和国	南スーダン共和国
エジプト・アラブ共和国	ソロモン諸島	ベルギー王国	
エストニア共和国	タイ王国	ポーランド共和国	
エチオピア連邦民主共和国	タジキスタン共和国	ボツワナ共和国	
エルサルバドル共和国	タンザニア連邦共和国	ポルトガル共和国	
オーストラリア連邦	チリ共和国	マーシャル諸島共和国	
オーストリア共和国	デンマーク王国	マレーシア	
オランダ王国	ドイツ連邦共和国	ミクロネシア連邦	
ガーナ共和国	トンガ王国	ミャンマー連邦	
ガイアナ共和国	ナイジェリア連邦共和国	メキシコ合衆国	
カナダ	ニュージーランド	モザンビーク共和国	

※2016年11月1日付

# 国際通用性のある教育システム

Shape your world



## 学生をしっかり学ばせる教育システム

### 春・秋の2回入学とクォーター制の採用

- 開学以来、春と秋、年2回の入学・卒業を実施
- クォーター制(1クォーター=2ヶ月)とセメスター制の併用により、柔軟な学習スケジュールが可能
- 集中的な学び(同一科目週2回)で学習の節目・山場が頻繁に

### 日英二言語教育 ※学部のみ

- 「英語を学ぶ」から、「英語で学ぶ」へ
- 習熟別クラスと少人数授業で徹底的に鍛える言語教育
- 多文化キャンパスのいたるところで鍛えられる言語運用能力
- 授業ではプレゼンテーションやディスカッションを多用

### 体系的なカリキュラムと国際基準の成績管理

- 科目レベルと履修の順次性を示す科目ナンバリング
- 5段階評価とGPA (Grade Point Average) による厳格な成績管理
- 期末試験は成績の50%以下、日々の学習や授業参画状況も評価
- 海外の大学で採用されているUMAP単位互換方式(UTCS)を採用

### 協働学習環境

- 学生が学びあう環境、文化
- 多様な学生スタッフが大学運営や教育活動に参画
- 言語自主学习センター「SALC」で学生同士が教えあう
- ラーニング・コモンズで活発なグループワーク



# 国際教育寮 APハウス



違いを知る。認める。そのうえで課題についてとことん話し合い、「解決策」を導き出す力を育む。

## 互いの生活環境や 価値観の違いを知る



- シェアルームは日本人学生と国際学生のペア
- 共同キッチンで互いの国・地域の食文化に触れる

## ともに暮らすための ルールを作り、運営する

- RA(レジデント・アシスタント)が寮生を24時間サポート
- 各種イベントの企画・運営
- フロアを巡回、ゴミ分別チェック



52カ国・地域 1,073人がともに暮らす  
2016年5月1日



## 学び合い、 助け合う心を養う



- 日常生活の空間で他言語・多言語学習
- 授業やレポートの教え合い・学び合い
- 毎週フロアミーティングを実施

## イベントを通じて 交流を深める

- フロアや棟ごとにパーティやイベントを開催
- 各国の文化を紹介する企画
- 日本の名所をめぐるバスツアーなどを開催
- 世界祭(寮祭)の実施



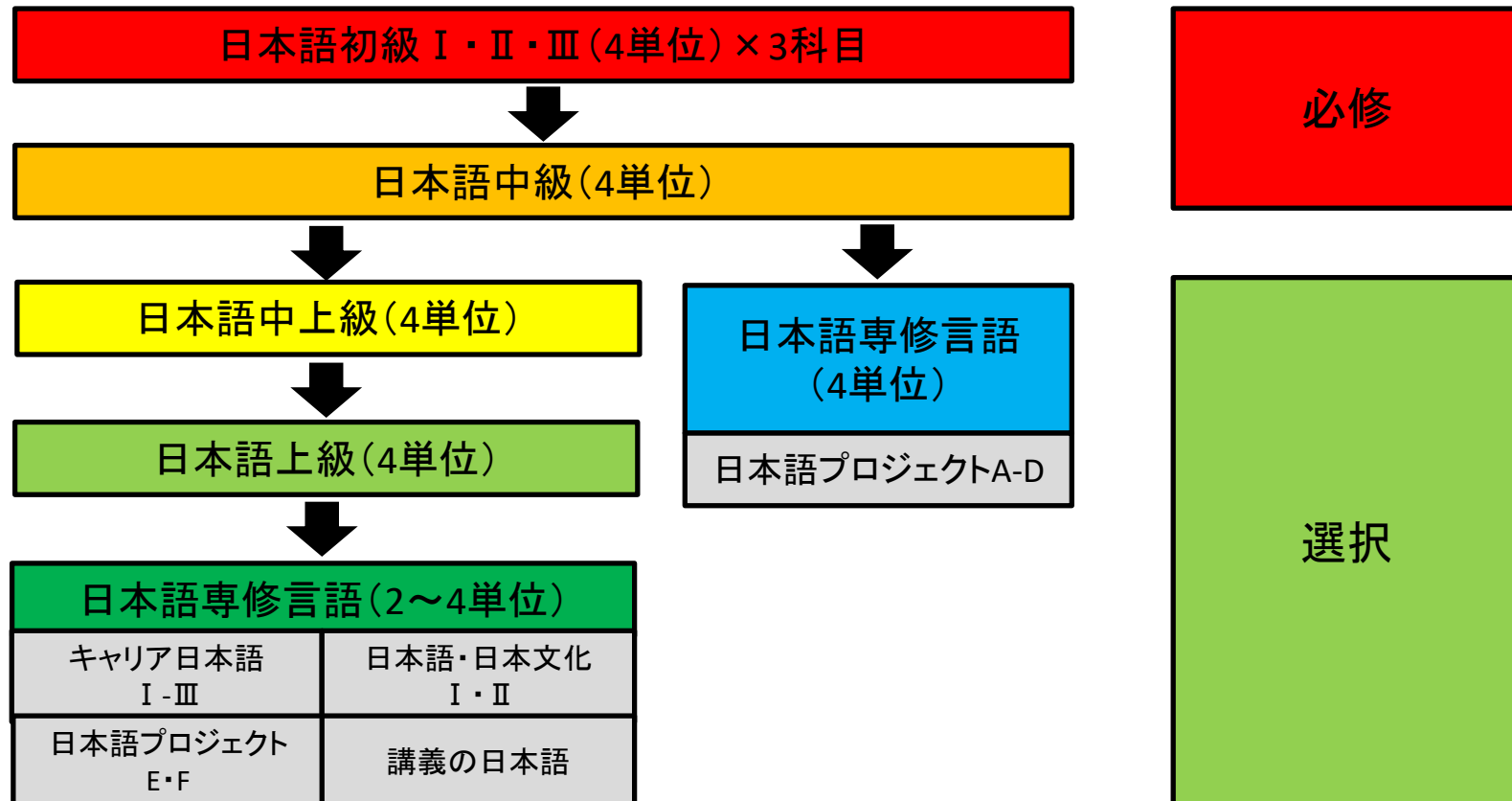
個室932室+シェアルーム189室(378名)=1,310名 収容可能



# グローバルキャンパスにおける日本語教育

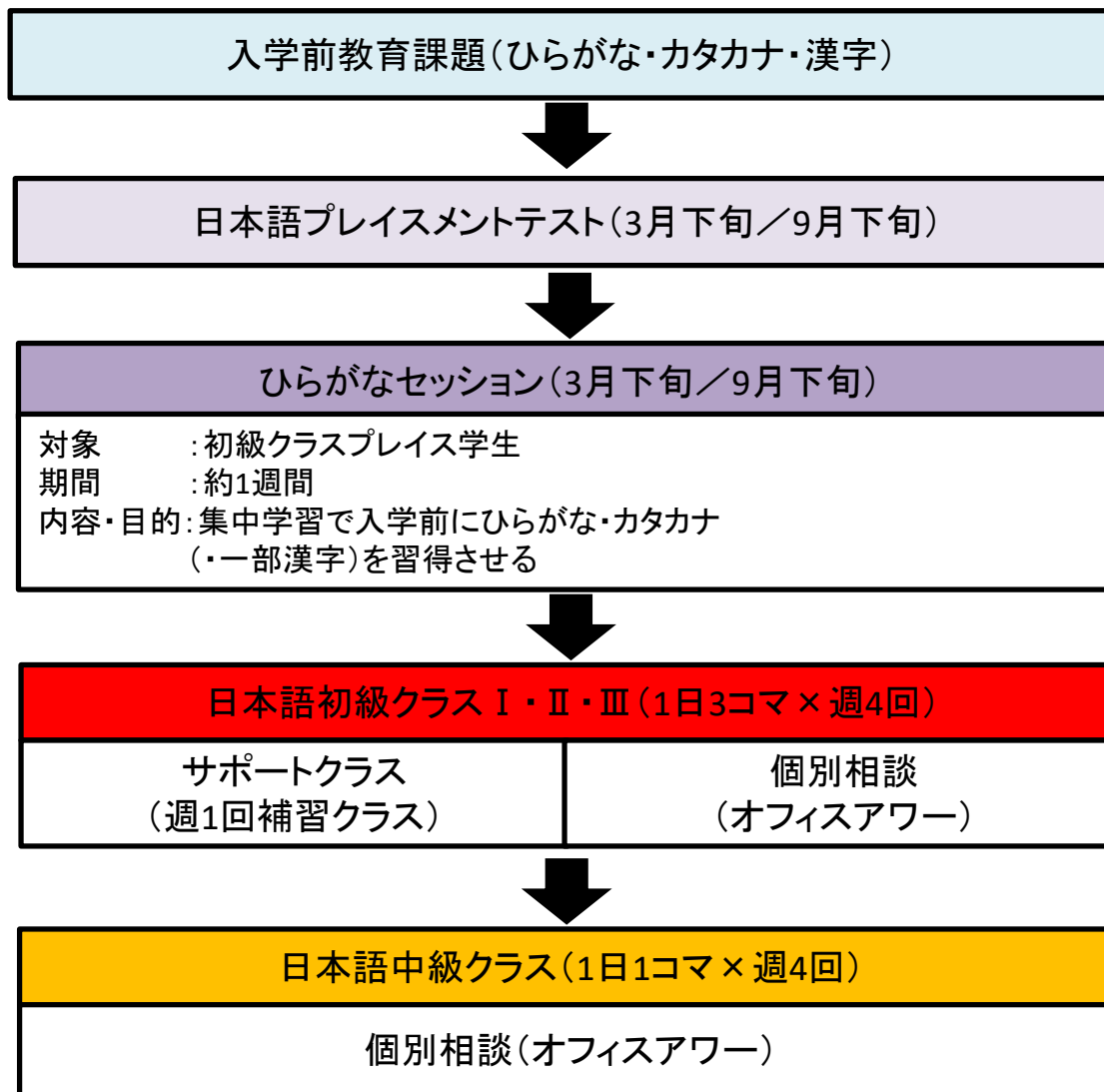
- ・国際学生が日本で安心・安全に生活していくために、日本語修得が非常に重要
- ・入学時のプレースメントテストにより、履修開始レベルが決定(日本語中級までが卒業必須単位)
- ・入学後1年間でインテンシブに日本語学習を行うカリキュラム(初級 I プレイスだと1日3コマ/週4回)

## 【日本語カリキュラム】



# 入学前からの一貫した日本語サポート (初級プレイス学生向け)

Shape your world



入学前

入学後  
(必修)

Shape your world



# APUでの「混ぜる教育」の実践

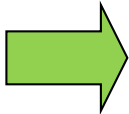
## 初年次教育科目における ピアリーダーの活用





# 初年次教育の概要

目的	
1	高校からの円滑な移行と大学生活への適応
2	大学基本理念・歴史の理解とアイデンティティ形成
3	他者との関係構築・学びのコミュニティ形成
4	異文化理解力と異なる文化・価値観への寛容性
5	将来の進路目標設定と高い学習意欲の形成
6	他者と協調・協働する力の形成
7	大学における学修技法の修得
8	主体的・能動的な学修スタイルへの「学びの転換」



大学生活への  
適応

- ・「Reassure型」新入生オリエンテーション
- ・入学前教育プログラム(キャンパス訪問デー、APUノート、英語・基礎力アップ講座、スクーリング)
- ・国際学生寮におけるコミュニティづくり
- ・保護者向けプログラム(親子で考える留学、キャンパスツアー)

大学生活成功  
リテラシーの  
獲得

- ・「新入生ワークショップ I」(登録必修科目)
- ・「APU入門」(選択科目)
- ・アカデミックアドバイジング
- ・学習サポート(FIX講座、SALC言語自主学習センター、ライティングセンター)

異文化理解への  
動機付け

- ・「新入生ワークショップ II」(登録必修科目)
- ・「FIRST - Freshman Intercultural Relations Study Trip」(選択科目)
- ・国際学生寮における異文化間交流活動



# ピアサポートの概要

	ポジション名称	活動内容	人数	給与	所管オフィス
課外	GASS (Global Admissions Student Staff)	オープンキャンパス運営	76	有	アドミッションズ
	SCA (Student Career Advisor)	3回生の就職活動をサポート	36	無	キャリア
	JAC (Junior Assistant Advisor for Career)	低回生のキャリアガイダンスのサポート	26	無	
	RA (Resident Assistant)	国際学生寮のフロア運営	64	有	スチューデント
	SAS (Student Activity Station)	課外活動におけるサポート	16	有	
	FLAG (Fellow Advisory Group)	新入生オリエンテーションにおけるサポート	26	有	
	HAO (House Activity Organization)	国際学生寮のイベント企画運営	6	無	
	岩田APUコースTA (Teaching Assistant)	岩田APUコースにおけるサポート	11	有	アカデミック
	ALRCS (Academic & Learning Resource Core Staff)	ライブラリー、情報システム等に関するサポート	44	有	
	Writing Tutor	ライティングセンターでのライティング支援	22	有	
	Note Taker	難聴の学生のためのノートテイキング	12	有	
	PA (Peer Assistant)	SALC(言語自主学习センター)におけるサポート	18	有	
	SEA (Student Exchange Advisor)	学生留学アドバイザー	2	有	
	SRC (Super Ryugaku Course) Assistant	スーパー留学コースにおけるサポート	6	有	
	CS (Community Supporter)	留学コミュニティにおけるサポート	14	有	
Buddy	短期留学生のサポート	50	無		
正課	講義TA (Teaching Assistant)	一般講義科目におけるサポート	127	有	(春semesterの初年次TA 95名)
	言語TA (Teaching Assistant)	言語科目におけるサポート	105	有	
	初年次TA (Teaching Assistant)	初年次教育科目におけるサポート	150	有	

合計:811名(全学生の約15%)



# 初年次TA:業務内容

	新入生ワークショップ I (登録必修科目)	新入生ワークショップ II (登録必修科目)	APU入門 (選択科目)	FIRST (選択科目)
授業の目的	大学で必要不可欠な学習技法・学習態度の獲得	APUで必要不可欠な異文化間協同・協働の体験学習	大学生活全般への適応、学習意欲・目的意識の向上、大学の理念・歴史の理解	異文化に対する興味・関心の醸成、海外学習への導入
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語基準別</li> <li>教員による講義とTAによる演習の組み合わせ</li> <li>特定のテーマについて少人数グループで学習し、個人レポートを執筆・口頭発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員による言語基準別の講義とTAによる言語基準混合の演習の組み合わせ</li> <li>言語基準混合の少人数グループによるプロジェクトの企画・実行およびその成果についてのプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語基準別に実施</li> <li>大学生活に関連する様々なテーマについて少人数グループでディスカッションし、話し合った内容をクラス全体でシェア</li> <li>セメスター終盤は言語基準混合になり多文化協同学習およびプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内学生は韓国(春セメ)、国際学生は九州(秋セメ)で3泊4日の実習</li> <li>事前授業で言語学習と調査準備、実習で少人数グループによる異文化オリエンテーリングと調査、事後授業で実習の振り返りと調査結果のプレゼンテーション</li> </ul>
1クラスあたりの受講生数	最大60名	約200名(日本語基準約110名、英語基準約90名)	30名	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国プログラム:約75名(国内学生)</li> <li>九州プログラム:24名(国際学生)</li> </ul>
1クラスあたりのTA数	5名	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーTA:4名(日本語基準2名、英語基準2名)</li> <li>TA:16名(日本語基準8名、英語基準8名)</li> </ul>	5名	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国プログラム:約13名(韓国人学生)</li> <li>九州プログラム:4名(日本人学生)</li> </ul>
TAの主な業務	演習の運営、グループワークの補助、レポート・プレゼンに対するアドバイス・フィードバック、出欠確認、資料配布、課題回収・返却		グループワークのファシリテーション、個別アドバイス・フィードバック、出欠確認、資料配布、課題回収・返却	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークの補助、言語学習・調査準備の補助</li> <li>実習中は手伝わない</li> </ul>

# 初年次TA - 新入生ワークショップ II

## 授業の目的



チームワーク力

異文化間コミュニケーション力

問題発見・解決力

多文化間協同・協働



## 授業の方法

講義



演習

- ・ 教員が担当
- ・ 大教室
- ・ 言語基準別

- ・ TAが担当
- ・ 小教室
- ・ 言語基準混合





# 初年次TA - 新入生ワークショップII

## グループプロジェクト:「APUドリームプロジェクト」

→ 国内学生と国際学生が6人1組でチームワークを発揮して  
APUを活性化するようなプロジェクトを企画および実行

### 理解

- ・ 各自がAPUでやりたいこと、実現したいことを考える
- ・ 他の人がAPUでやりたいこと、実現したいことを知る

### 企画

- ・ プロジェクトアイデアについてブレインストーミング
- ・ プロジェクトアイデアを絞り込む

### 実行

- ・ 企画を実行する
- ・ その成果をまとめる

### 発表

- ・ プレゼンテーション大会で発表
- ・ 最優秀グループは大学の幹部の前でプレゼンテーション

# 初年次TA - 新入生ワークショップII

---

【リーダーTA研修:2泊3日 9月20(金)~9月22日(日)】

## <一日目>

- ワークショップIIのコンテンツ説明
- 経験者LTA4名からの仕事内容プレゼン
- TA研修で実施するアクティビティの体験演習(第2週「チームワーク」)
- 一日目の振り返り&チームビルディング
- APハウス宿泊:各クラスの運営方針を話し合う

## <二日目>

- TA研修で実施するアクティビティの体験演習(第3週「BARNGA」第4週以降のグループプロジェクトのアクティビティ)
- APハウス宿泊:プロジェクト案の作成

## <三日目>

- プロジェクト案の発表
- グループプロジェクトの内容・進め方についての振り返り
- TA研修へ向けた準備
- BTC(Beginner TAs Caf e)の運営方針、リーダーTAsの運営方針

# 初年次TA - 新入生ワークショップII

【TA研修:2日間 9月27日(金)、  
28日(土)】

## <一日目>

- ワークショップIIのコンテンツ説明
- LTA4名からの仕事内容プレゼン
- アイスブレイキング・チームビルディング:各クラスの運営方針を話し合う
- 授業実施するアクティビティの体験演習(第2週「チームワーク」)
- 一日目の振り返り

## <二日目>

- TA研修で実施するアクティビティの体験演習(第3週「BARNGA」、第4週以降のグループプロジェクトのアクティビティ)
- 二日間のセッションのまとめと振り返り
- BTCの案内



ドリームレポートとインタビューから得られたキーワードを付箋に書き出し、グループで日英二言語でのブレインストーミング



一つのキーワード、あるいは複数のキーワードを合わせて、APU生がAPUでやりたいこと、実現したいことを後押できるようなプロジェクト・アイデアをできるだけ多く考える

# 初年次TA - 新入生ワークショップII



**【中間研修:10月16日5限、6限】**

- ペアTA同士でお互いのTAとしての技量や成長についてフィードバック
- TAチームのチームワークの振り返り
- 授業の進め方についての振り返り

**【最終振り返り研修:1月15日5限6限】**

- TAとしてうまく行ったところを振り返る
- TAとしてチャレンジングだったところを振り返る
- 効果的な解決方法について考える
- 小グループでの共有と大教室でのまとめ
- 最終振り返りレポート

# LTA・TAの仕事

授業前



授業中



授業後

## 【TA】

1. パートナーとのMTG
2. 予習
3. 事前ミーティング (MTG)

## 【LTA】

1. LTA教員ミーティング
2. TAへのメール連絡
3. 事前MTGの運営

1. 授業運営

1. 授業の進み具合の見回り
2. 必要に応じて連絡
3. 問題対応

1. 事後MTG
2. 振り返りシート
3. 学生のケア

1. 事後MTGの運営
2. 教員と授業の振り返り
3. 出席・回収課題整理

# TAとしての仕事①

授業前

授業中

授業後

## 【授業前】

### □ パートナーとのMTG

- 授業内容を決める
  - 教案をもとに自分なりの詳細教案を作成
    - 「授業で何が行われるのか、イメージを固めておく」
      - 所要時間を、実際の時間に書き直しておく（例：5分間-> ~ 10:45）
      - 問題を予測しておく（例：プレゼンの発表時間の延長など）
      - 課題の詳細の確認（例：文字数、フォントなど）
    - わからないことは、事前にLTAや先生に聞く
- （必要であれば）学生にメールを送信（例：宿題に関する情報など）

# TAとしての仕事①

授業前

授業中

授業後

## 【授業前】

### □ 予習

- 授業内容の理解を深め、受講生に分かりやすく伝えられるよう準備
- 学生の課題を理解しておく(TA自身がやってみる)

### □ 事前MTGに参加

- On timeで参加
  - 当日のインストラクションの確認
  - 最終ペアTAミーティング

### □ 教室の環境を整える

- 窓やカーテンを開け、空気を入れ換える
- 伝達事項を板書する



# TAとしての仕事②

授業  
前

授業  
中

授業  
後

## 【授業中】=授業運営

### □ タイムマネジメント

- オンラインストップウォッチの使用 (<http://www.online-stopwatch.com/>)

### □ 出席の確認

- 学生の名前・ニックネームを早く覚える
- 学生に名札を作ってもらう

### □ 資料の配布

- 不足がないように、事前に枚数を確認しておく
- 資料の説明をわかりやすくする

### □ 教案に沿った活動のファシリテーション

- インストラクションを日英でわかりやすく伝える
- グループワークへの介入

事前によりしっかりイメージしておくこと、予期していないハプニングにも対処しやすくなる。

※わからないことがある場合には、LTAや先生に聞く

# TAとしての仕事③

授業前

授業中

授業後

## 【授業後】

### □ 事後MTG:

- 出席・課題確認シートの記入を確認する
- その日の授業の振り返りと全体シェア
- 次の週の授業内容の確認

### □ 学生のケア

- 課題等の補足
- 欠席の多い学生に、連絡する

※問題や不安がある場合には、LTAや先生、他TAに相談する

# TA事後ミーティングの様子

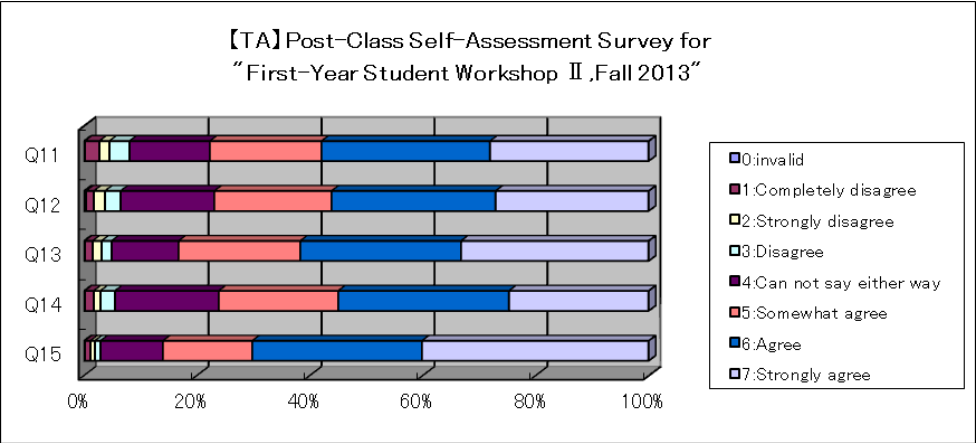
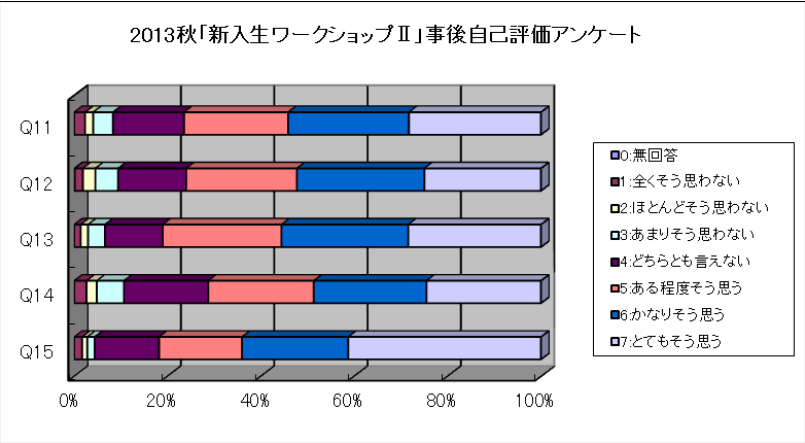




# 初年次TA - 新入生ワークショップ II

## 受講生にとってのTAの存在

項目
Q11TAのおかげで授業に出席しようとする意欲が高まった
Q12TAのおかげでグループワークに積極的に参加しようとする意欲が高まった
Q13TAのおかげで授業内容に対する理解が深まった
Q14TAのおかげで大学生活にうまく適応できた
Q15教員よりもTAのほうが質問や相談がしやすかった

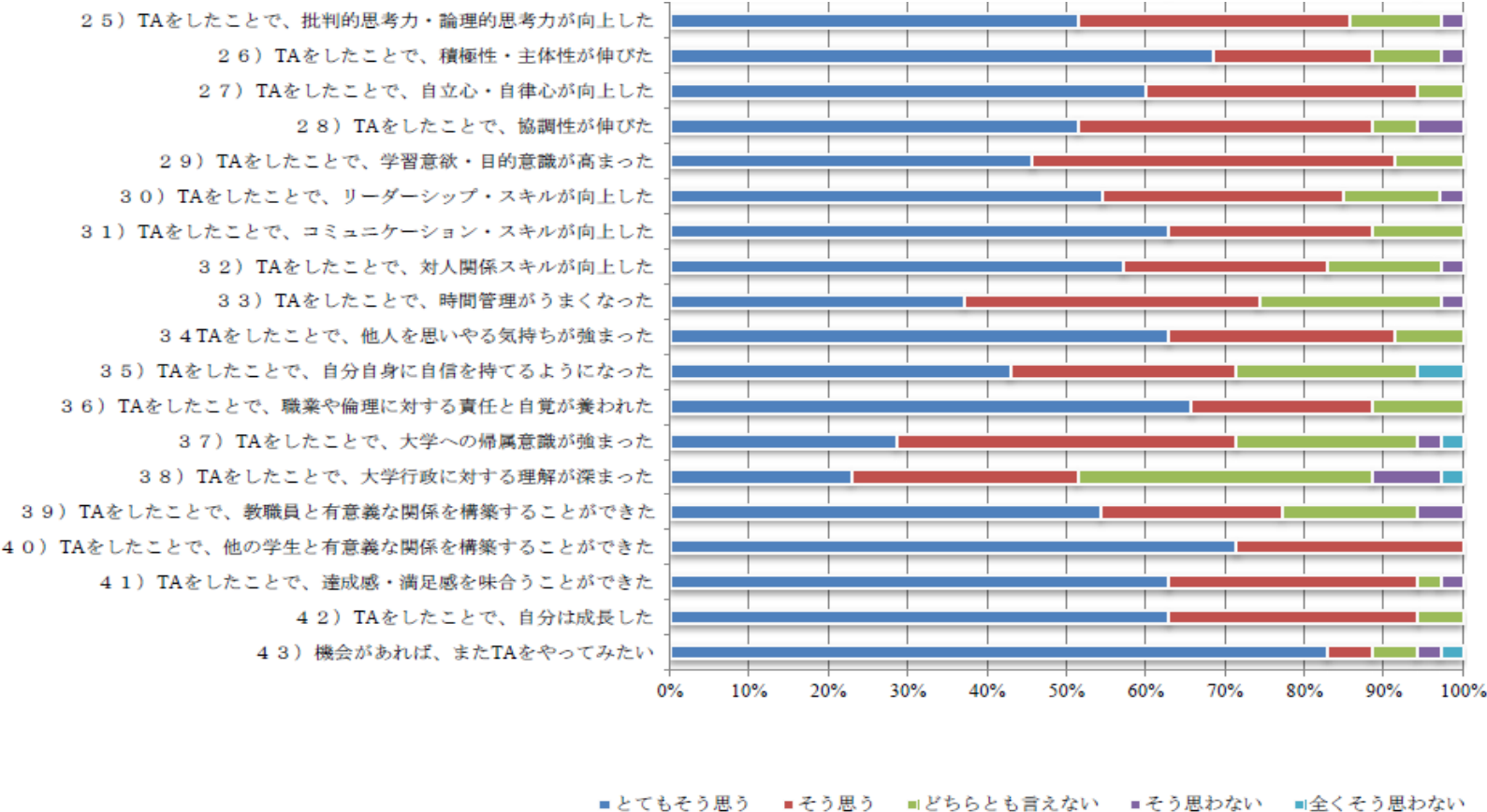


※2013年度秋semester「新入生ワークショップ II」自己評価アンケートより



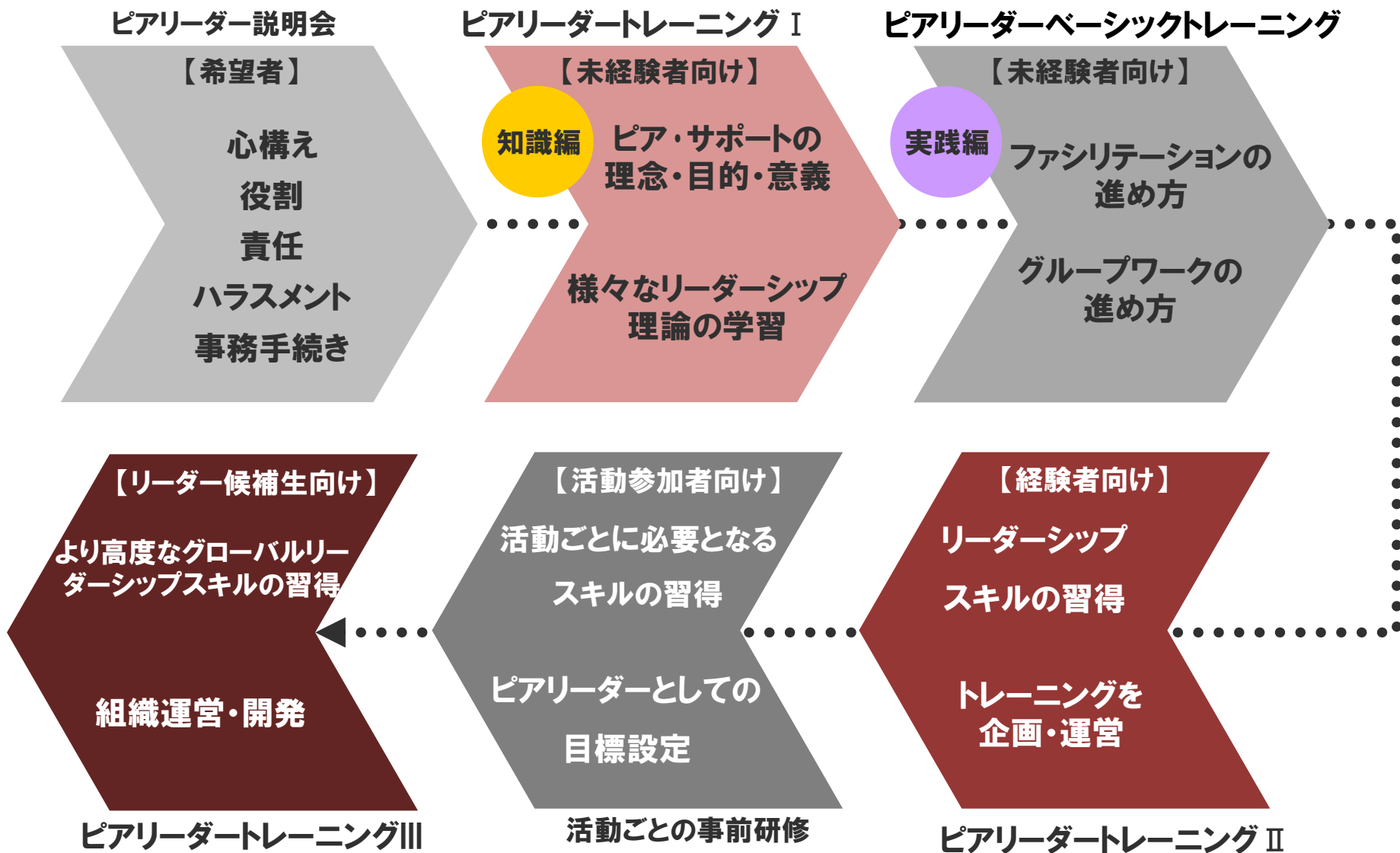
# 初年次TA - 新入生ワークショップ II

## TAの成長



※2012年度秋 semester 「新入生ワークショップ II」TAアンケートより

# ピアリーダー育成スキーム



# ピアリーダー育成スキーム

## □ ピアリーダートレーニングⅠ（理論編）

- 対象：主に1、2年生（日本語クラス50名、英語クラス50名）
- ピアリーダーの理念やモデルの理解、様々なリーダーシップ理論の学習

## □ ピアリーダーベーシックトレーニング（基礎編）

- 対象：1年生50名（日本人学生と国際学生25名ずつ）
- 習得スキル：チームワーク、プレゼンテーション、タイムマネジメント、モチベーション、異文化コミュニケーション、創造性など
- PLT IIAの受講生によって各セッションが企画・運営される

## □ ピアリーダートレーニングⅡ（中級編）

- 対象：2年生以上（日本語クラス20名、英語クラス20名）
- 習得スキル：グループダイナミクス、ファシリテーション、フィードバック、コミュニケーションスタイル、プログラミング
- 担当教員のスーパービジョンのもと、PLBTのセッションを考案・実施

## □ ピアリーダートレーニングⅢ（上級編）

- 対象：3年生以上（英語クラス：APU学生および日本人社会人20名程度）
- 習得スキル：Future Sessionsのファシリテーション、グローバルリーダーシップ
- 日本人社会人とともに社会変革のためのワークショップを企画実施

# 今後の課題

---

## □ TAの選考方法の改善

- 選考基準の明確化
- 書類選考のみから面接の実施へ

## □ TAおよび教員の役割・業務内容の明確化

- TAにどこまで仕事をしてもらうのか／教員の役割は何か
- 教育の質保証をどのように維持するか

## □ TA研修の改善

- 経験者TAの力の活用
- 初心者TAのサポート
- 他大学のTAとの共同研修

## □ TAとしての学びや成長の般化促進

- どのようなスキル・態度を身につけたのか／身につけたいのかを明確化
- 就職活動との連携
- 業務外でも自然にリーダーシップが発揮できるように



# グローバルキャンパスでの学生生活課題

一方で、学生生活に課題を抱えている学生もいる

## □ カウンセリング相談件数

年間 国際学生:約60件 国内学生:約100件

主訴分類

### 国内学生

	主訴	%
1	性格・アイデンティティ	16%
	精神衛生	16%
3	対人関係	13%
4	ストレス	9%
5	進路・就職	7%
6	その他心理相談	7%
7	家庭環境	5%
	発達障害	5%
9	学修	4%
	その他	4%
	恋愛	4%
12	身体	3%
13	事件・事故	2%
	不登校	2%
15	感情コントロール	1%
	生活リズム	1%
	不適応	1%
	不眠	1%
	ホームシック	1%

### 国際学生

	主訴	%
1	精神衛生	31%
2	対人関係	13%
3	学修	10%
	性格・アイデンティティ	10%
5	ストレス	8%
6	不眠	6%
7	恋愛	5%
	進路・就職活動	5%
9	心理(その他)	3%
	事件・事故	3%
11	ホームシック	2%
	その他	2%
	身体	2%
	家庭	2%

# APU国際学生に特有のストレス

---

## □ 日本語授業

→履修単位の多くの割合を占め、ストレスになりやすい(大洋州、欧米学生)

## □ 奨学金維持(=成績の維持)に対するプレッシャー

## □ 経済困窮

→約70%の国際学生は奨学金を受給しており、不調があっても休めない

→1回生次はアルバイトを行うことも難しい

## □ 母国との風土・気候の違い

→温暖気候の国から来た学生は寒い時期に精神不調が多くなる

## □ 狭いコミュニティ(同国コミュニティ)における対人関係

→入学直後に出来る同国コミュニティでの対人関係がストレスになることも多い

→居場所を見つけられない場合もある

## 国際学生の事件・事故に対する課題

---

- 反省するという習慣・文化がない学生も少なくない  
→再犯リスクも高い
  
- 日本の常識を知らずに事件に繋がってしまう  
→ポケットに商品を入れる、裸足で高速道路を歩く等
  
- 病院で言語が通じない  
→受け入れを断られることが多くなる
  
- 親を呼べない  
→言葉が通じない、文字が書けないケースも

## 国際学生の事件・事故課題対応

---

- 反省するという習慣・文化がない学生も少なくない
  - Punishmentを明確に提示
  
- 日本の常識を知らずに事件に繋がってしまう
- 病院で言語が通じない
  - 学生寮での日本習慣教育
  - 地域との連携(病院、店舗、バス会社など)
  
- 親を呼べない
  - 親元に返す事が出来る仕組みの構築

## グローバルキャンパスでの学生対応

---

- 混ぜる仕組みを用意し、学生の成長を最大限に支援
  - ・多文化協働学修
  - ・ピアサポーター制度
  
- 上手く混ざれない学生への支援体制を強化
  - ・連携強化—医療機関、学内部署
  - ・資源拡充—留学生保険制度、医療通訳
  - ・情報収集—入学前、母国・家族の情報
  - ・体制強化—専門家、危機対応時のフロー確立

ご清聴ありがとうございました



大分県之関係者様座  
Reserved

大分県之関係者様座  
Reserved

関係者座  
Reserved

関係者座  
Reserved

関係者座  
Reserved

関係者座  
Reserved

関係者座  
Reserved